

スポーツのチカラ まちのミライ

vol.10

2030北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会が実現すると、私たちの街・札幌はどのような姿へと変貌を遂げるのでしょうか？プロスキーヤーの井山敬介さんにお話を伺いました。

世界に誇れる雪がある札幌
子どもたちが胸を張れるふるさとに

プロスキーヤー
ばんけいスキー学校所属・インストラクター
井山 敬介 さん

1978年生まれ、富良野市出身。アルペンレーサーとして高校時代にはナショナルチームで数々の実績を残す。現在はばんけいスキー学校に所属しインストラクターとして技術を磨く傍ら、スキーと雪の魅力を伝える出前授業「雪育」を開くなど、ウィンタースポーツの振興にも力を注いでいる。

取材協力: OYOPA-RE (オヨパレ)

北海道・札幌の雪の素晴らしさを
「雪育」で子どもたちに伝えたい

北海道の雪は、雪質・積雪量ともに世界トップクラス。そして、札幌市は、冬には約6mもの積雪を記録する地域に196万もの人々が暮らす、世界でも珍しい「雪のまち」です。雪は僕たちスキーヤーにはもちろん、市民にとってもかけがえない財産ですが、様々な生活への影響から、厄介者のように捉えられてしまうことも……。そこで、もっと雪の魅力を知ってほしいと2009年からスキーヤー仲間と始めたのが、「雪育」という出前授業です。自作の映像や雪にまつわるクイズなどを通して、子どもたちにウィンタースポーツの楽しさと雪の素晴らしさを伝える活動をしています。

市民が雪の価値を見つめ直し
誇りを持てるまちづくりの契機に

はじめは「寒いし雪かきが大変だから雪は嫌い」なんて言っていた子どもたちが、授業を通じて雪の大切さや楽しさを知るうちに、雪を好きになつてくれる。「雪育をきっかけにスキー教室に通うようになった」、「親子でスキーを始めた」など、うれしい報告も多く、雪の価値を伝えるだけでなくウィンタースポーツ振興の面でも、雪育の重要性を実感しています。もし北海道・札幌冬季オリパラが実現したら、子どもたちは自分たちの街や自然環境に興味を持ち、よりふるさとに愛着と誇りを持つようになると思います。オリパラ開催を、市民が雪の価値を見直すきっかけにして、札幌ならではの素晴らしい雪文化を世界に発信してほしい。そして、子どもたちが誇れるまちづくりを生かしてほしいと思います。

問い合わせ先

札幌市スポーツ局招致推進部調整課 ☎011-211-3042



食や自然など多くの魅力に恵まれた
「笑顔になれる街」さっぽろをイメージしたロゴです
問い合わせ先

札幌市総務局広報部広報課 ☎011-211-2036